

# 患者アセスメント及びマネジメントセミナー後の薬局業務に対する意識及び行動変容に関する研究

○ 佐藤 大峰<sup>1</sup>, 野坂 明美<sup>1</sup>, 馬場 亮輔<sup>1</sup>, 森内 新<sup>1</sup>, 大和 圭二郎<sup>1</sup>, 早川 達<sup>2</sup>, 島森 美光<sup>2</sup> (1 ライブリー, 2 北海道薬大)

## 目的

薬局における患者アセスメントや患者マネジメントに重点をおいた業務を実践するために、セミナーを行ってきた。  
本研究では継続したセミナーが業務にどのような変化をもたらしているかを明確化するため、  
セミナー後における薬剤師の業務の実践に対する意識及び行動の変化について検討を行った。

## 対象

平成24年6月に株式会社ライブリーに勤務する薬剤師のうち、薬歴向上実践セミナーおよび患者アセスメントセミナーに参加した薬剤師を対象に薬歴に関するアンケートを送付。

## 薬歴に関するアンケート内容

### 質問内容

### 観測変数

Q1. 患者の採血データ等検査内容の詳細を確認する様になった。	データの確認
Q2. 患者アセスメントを薬学的評価に役立てている。	アセスメントに基づく薬学的評価
Q3. 患者の病態把握を考慮した治療目標を立てるようになった。	病態把握を考慮した治療目標立案
Q4. 提案・対応・指導するロジック(論理)を理解できている。	ロジックへの理解
Q5. 患者マネジメントプランを考える事が薬物療法の幅を広げてくれた。	マネジメントプランによる領域の拡大
Q6. 患者アセスメントを処方医への疑義照会や処方提案に役立てている。	アセスメントに基づく照会・提案
Q7. 患者の病態把握を考慮した上で薬歴管理を実践している。	病態把握を考慮した薬歴管理
Q8. 患者マネジメントプランを利用した疑義照会や処方薬の提案を行っている。	マネジメントプランによる照会・提案
Q9. 患者の病態把握を考慮した上で処方医への疑義照会や処方提案を実践している。	病態把握を考慮した照会・提案
Q10. 患者の医療上の問題点を薬歴に記載又は挙げるようになっている。	医療上の問題点の記載
Q11. 患者の採血データ等検査内容を評価した薬歴管理を実践している。	データを評価した薬歴管理
Q12. 薬学的評価を用いた薬歴管理を実践している。	薬学的評価による薬歴管理
Q13. 薬局内で統一した薬歴管理を実践するようになった。	薬歴管理の統一
Q14. 患者アセスメントを考慮した薬歴管理を実践している。	アセスメントを考慮した薬歴管理
Q15. 患者マネジメントプランを利用した服薬指導を実践している。	マネジメントプランに基づく服薬指導
Q16. 患者のモニタリング項目を薬歴に記載又は挙げるようになっている。	モニタリング項目の記載
Q17. 患者アセスメントを治療目標立案に役立てている。	アセスメントを考慮した治療目標立案
Q18. 患者の治療目標を考慮した服薬指導を実践している。	治療目標に基づく服薬指導
Q19. 患者マネジメントプランを作成するようになった。	マネジメントプランの作成
Q20. 処方薬の妥当性を根拠に基づいて薬学的評価を行い、薬歴に記載している。	根拠に基づいた薬学的評価
Q21. 患者の病態把握を考慮した薬学的問題点を抽出している。	病態把握を考慮したプロフレムリスト
Q22. 薬学的評価(処方薬の妥当性や提案)を行う上で、疫学等のデータを使用している。	エビデンスに基づいた薬学的評価
Q23. 患者アセスメントを薬学的問題点の抽出に役立てている。	アセスメントに基づくプロフレムリスト
Q24. 患者の治療目標を考慮した処方薬の妥当性を評価している。	治療目標に基づく妥当性の評価
Q25. 患者の病態把握を考慮した上で服薬指導を実践している。	病態把握を考慮した服薬指導の実践
Q26. 患者アセスメントを患者の服薬指導に役立てている。	アセスメントに基づく服薬指導
Q27. 患者の治療上の問題点を薬歴に記載又は挙げるようになっている。	治療上の問題点の記載
Q28. 患者の採血データ等検査内容を病態把握に役立てている。	データに基づく病態把握
Q29. 作成したマネジメントプランを患者へ利用するようになった。	マネジメントプランの利用
Q30. 患者アセスメントを処方薬の妥当性を評価するのに役立てている。	アセスメントに基づく妥当性の評価
Q31. 患者の治療目標を考慮したモニタリングを行っている。	治療目標を考慮したモニタリング
Q32. 患者の採血データ等検査内容から処方薬の妥当性を評価している。	データに基づく妥当性の評価
Q33. 提案・対応・指導するロジック(論理)を実践している。	ロジックの実践

## アンケートの内容

- 性別
- 薬剤師経験年数
- 株式会社ライブリー勤務年数
- セミナー参加年度
- 薬歴に関する質問33項目

## 仮説モデル



## 仮説モデルの解釈

- セミナーにより業務へどのように活用していくのかというモデルを考えた。
- セミナーの内容を考慮すると患者マネジメントと患者アセスメントに分かれると考えた。
- セミナーは患者マネジメントと患者アセスメントに影響を与えると考えた。
- セミナーの効果が直接業務へつながるモデルでは、行動の変化は得られないと考えた。
- 患者マネジメントや患者アセスメントが業務へ影響を与えるモデルにする事でセミナーの効果が業務にどのような変化がおきているかというモデルにした。

## 結果

### 探索的因子分析 :

IBM SPSS Statistics 19

因子負荷量0.4以上の観測変数を採択

### 共分散構造分析 :

IBM SPSS AMOS 19

抽出された因子を潜在変数とし、仮説をもとに分析

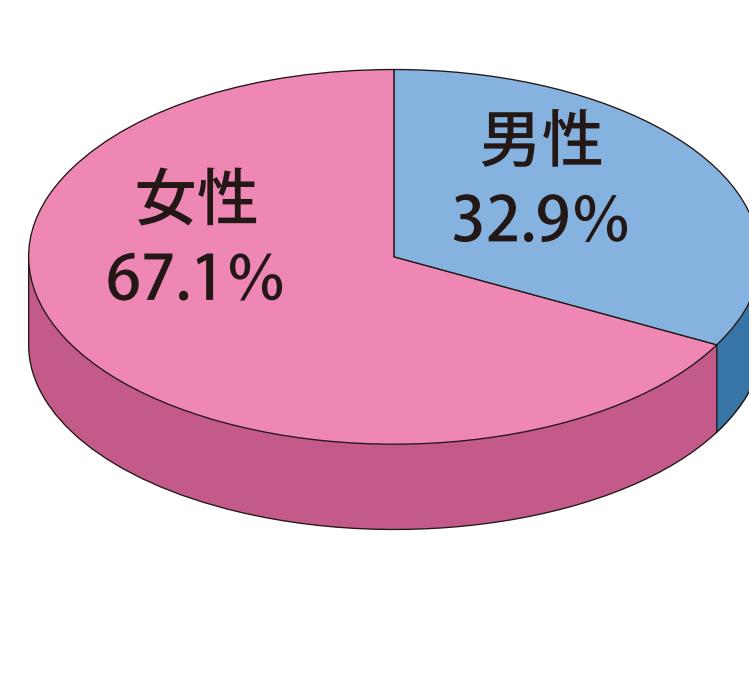
## アンケートの集計

回答者: 93名

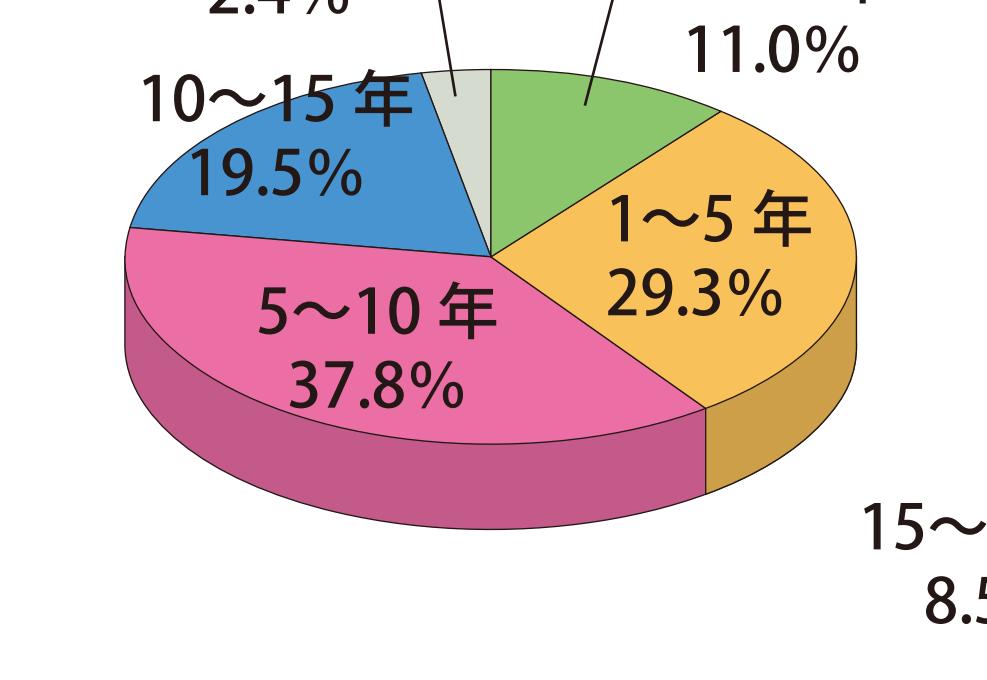
欠損値のあるもの: 11

有効回答率: 88.2% (82)

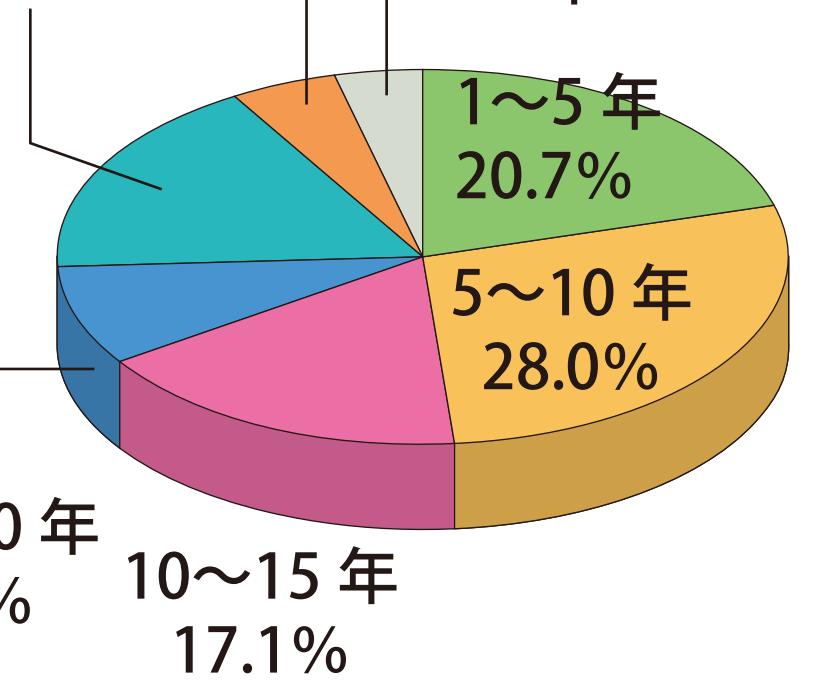
### 性別



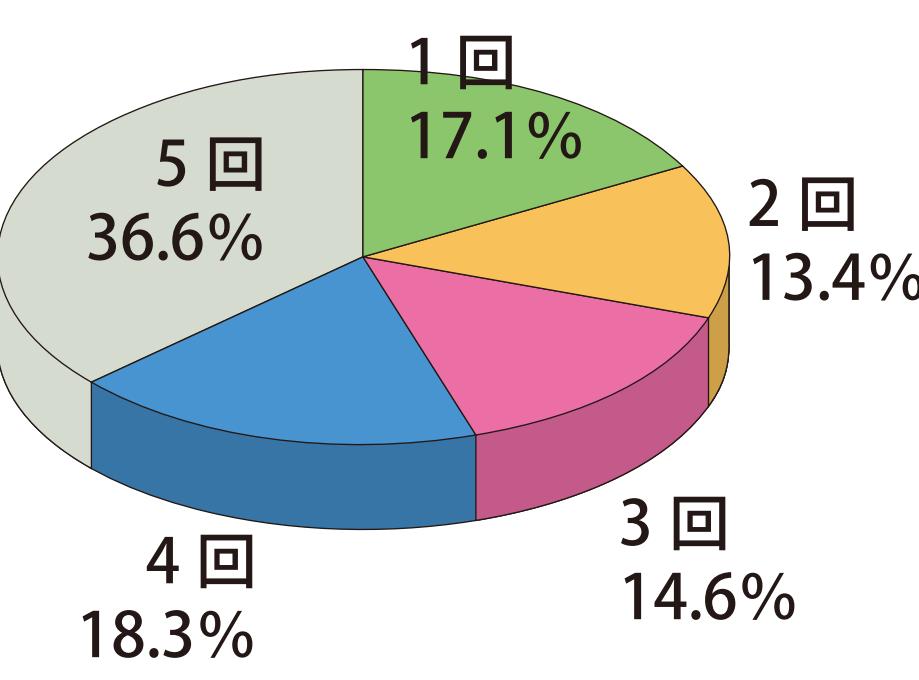
### 勤務年数



### 薬剤師経験年数



### セミナー参加



## 最尤法、プロマックス回転での因子分析の結果

観測変数	因子			
	1	2	3	4
ロジックへの理解	0.846	0.169	-0.034	-0.228
ロジックの実践	0.817	-0.023	0.342	-0.401
薬学的評価による薬歴管理	0.687	0.011	-0.164	0.29
根拠に基づいた薬学的評価	0.607	-0.263	0.157	0.249
病態把握を考慮したプロフレムリスト	0.552	-0.133	0.139	0.166
エビデンスに基づいた薬学的評価	0.518	0.228	-0.164	0.118
アセスメントに基づく照会と提案	0.02	0.963	-0.025	-0.127
病態把握を考慮した照会と提案	0.073	0.837	-0.171	0.134
マネジメントプランによる照会と提案	-0.141	0.821	0.252	-0.063
病態把握を考慮した治療目標立案	0.042	0.456	0.188	0.213
マネジメントプランの利用	0.114	0.074	0.843	-0.133
マネジメントプランの作成	0.054	-0.025	0.774	0.059
マネジメントプランに基づく服薬指導	-0.171	0.067	0.724	0.228
アセスメントを考慮した治療目標立案	0.065	-0.08	0.614	0.278
薬歴管理の統一	-0.148	-0.079	0.026	0.846
治療目的に基づく妥当性の評価	0.113	0.08	0.181	0.575
アセスメントを考慮した薬歴管理	-0.028	0.123	0.225	0.557
データに基づく妥当性の評価	0.426	0.004	-0.215	0.423
治療目的を考慮したモニタリング	0.046	0.107	0.216	0.411
アセスメントに基づくプロフレムリスト	0.166	0.103	0.223	0.331
アセスメントに基づく妥当性の評価	0.132	0.36	0.215	0.232

### 自由度 = 111

$\chi^2$  乗値 = 167.992

GFI = .823

AGFI = .756

CFI = .932

AIC = 251.992

RMSEA = .080

</div